

1966年第1回国際アンデルセン賞名誉賞を受賞したイエラ・レセプマンが、子どもの本への関心と呼び起こすためにアンデルセンの誕生日の4月2日を「国際子どもの本の日」として、子どもの本に関して世界中でお祝いや催しなどを行うことを提唱しました。



1967年、このことを受け国際アンデルセン賞^{※1}の選考や世界優良図書リストの作成などの活動を行っている国際児童図書評議会^{※2}（IBBY）は、4月2日を「国際子どもの本の日」に決めました。これ以後、各国では、さまざまな催しが行われるようになりました。

日本では、国際アンデルセン賞の窓口として日本国際児童図書評議会（JBBY）が活動しており、現在までに次の方が国際アンデルセン賞を受賞しています。



（作家賞）

受賞年	受賞者	作 品
1994年	まど・みちお	「どうぶつたち」, 童謡「1年生になったら」など
2014年	上橋 菜穂子	「精霊の守り人」 「月の森に, カミよ眠れ」 など
2018年	角野 栄子	「魔女の宅急便」 「ズボン船長さんの話」 など

（画家賞）

1980年	赤羽 末吉	「スーホの白い馬」 「かさじぞう」 「ももたろう」 など
1984年	安野 光雅	「あいうえおの本」 「ふしぎなえ」 「旅の絵本」 など

※¹ 1956年国際児童図書評議会により創設された子どもの本の分野における最高の国際的な賞です。同年に作家賞, 1966年に画家賞が創設されています。その選考水準の高さから「小さなノーベル賞」ともいわれ、世界中の児童文学の質の向上にはかり知れない影響を与えています。2年に一度授与されます。

※² 子どもと子どもの本に関わる全ての人を繋ぐ世界規模のネットワーク団体で、1953年スイスで設立され「子どもの本の国際連合」とも呼ばれています。



 **やなせたかし文化賞**

この賞は「アンパンマン」の作者で、2013年に94歳で亡くなった漫画家のやなせたかし氏の遺志を受け継ぎ創設された賞で、すぐれた漫画や絵本を製作した個人や団体に贈られます。第1回目の大賞は亀山達矢氏と中川敦子氏の絵本作家ユニット *t u p e r a t u p e r a*（ツペラツペラ）が受賞し、代表作は「しろくまのパンツ」「パンダ銭湯」などです。

Hello! 学校図書館

〈平尾小学校〉 その1



今年度も、福岡市内の小中学校、特別支援学校を訪問し、図書館の様子などを紹介していきます。学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

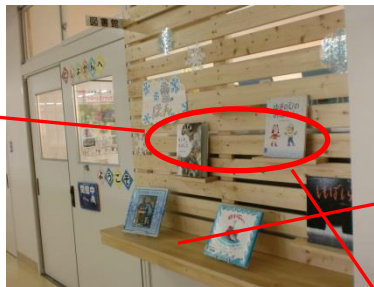
平尾小学校は、35学級1095名の学校です。今年度、校舎の大規模改修で図書館が新しくなりました。この図書館を先生方や子どもたち、PTA、図書館環境ボランティア、読み聞かせボランティア、やかまし村文庫、学校司書などみんなが協力して、使いやすい素晴らしいものにつくりあげていました。

○ 図書館入口の工夫

図書館の入口には季節に合わせた本と掲示物、廊下には図書館と同じ長さの掲示板や書架を技術吏員さんに作っていただき、そこにPOPを掲示したり、本を展示したりして本への興味を高めています。



(「雪のほん」と掲示し、「ほしをさがしに」などの季節に合った本を展示)



(図書館入口に設置された掲示板)



(本の表紙を見せて展示することができる棚)

○ 本の展示の工夫

POPに書かれた本を表紙が見えるように展示したり、展示する本の高さを変えたりして、本への興味を高め、本が目立つようにしています。



(廊下の掲示板と書架)



(場所を変えることができる棚板の上に展示された本)



(図書委員と読書クラブが作成したPOPと本と一緒に展示)



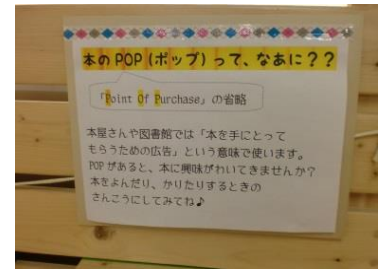
(POPと同じ本を表紙を見せて展示したため、現在貸出中になっている棚)



(展示している本とPOP)



(「ダルビッシュ有」のPOP)



(POPの説明を掲示)

○ 配架の工夫

廊下の書架に、辞書や辞典と子どもたちがよく読んでいて高さがそろっている本を配架しています。このため、美しく整った書架になり、すぐに子どもたちが本を手にすることができるようになっています。



(授業中でも、図書館に入らなくても使える辞書や辞典)



(「岩波少年文庫」などよく読まれる本をすぐに手に取ることができるように配架)

○ テーマにあわせた本を展示

P T Aの図書館環境ボランティアさんが季節ごとにテーマを決め、そのテーマにあった本や手作りポスターを展示しています。この時期は「学校／ともだち」です。

□ 図書館員のひみつの本棚《 No.155 》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが、昨年度に引き続き毎月素敵な本を紹介してくださる楽しいコーナーです。

新学期、友達をつくるのが苦手な子は、程度の差はあるものの不安に思っています。この絵本は、こんな子どもたちの気持ちを代弁しているだけでなく、友達を作るヒントになる絵本です。先生やおうちの方が、子どもたちに読み聞かせしてあげるのに、とてもよい絵本だと思います。

図書館員のひみつの本棚 第155回

今月は新年度にぴったりの物語です。

☆ 今月の本

『こんにちはとってごらん』

マージョリー・W・シャーマット／作 リリアン・ホーバン／絵

さかの やよい／訳 童話館出版 2012年 1296円

4月生まれの文学



森 絵都(もり えと, 本名 森 雅美)と「DIVE!!」

東京都 1968年4月2日生まれ

森氏は、小学4年の頃までは何かしら本を読み、母に連れられて図書館へ通ってもいましたが、そのうち友だちと外で遊ぶのがおもしろくなり、高校3年まで本をあまり読みませんでした。高校3年の進路選択の時、それまで作文くらいしかほめられたことがなかったので、たくさん本を読んで作家になろうと思い、なんとなく日本児童教育専門学校児童文学科に入学し、その後早稲田大学第二文学部文学言語系専修を卒業しました。

専門学校に進学後は本を読みだしましたが、とくに児童文学だけを読んでいただけではなく、内容よりも表紙を見て本を選んでいました。

1990年「リズム」で講談社児童文学新人賞受賞し、作家デビューをしました。

森氏がスポーツものを書こうと決めた時には、飛び込み競技のルールのこと何とも知りませんでした。が、「DIVE!!」(小学館児童出版文化賞受賞)を執筆したのは、一瞬のうちにすべてが終わってしまう飛び込み競技の選手の心情はどんなだろうと、ずっと興味があったからだそうです。この作品は、映画化とアニメ化をされ話題となりました。

森氏は絵本やアニメのシナリオも手掛けており、「カラフル」(産経児童出版文化賞受賞)、「風に舞いあがるビニールシート」(直木賞受賞)など、多くの受賞作品があります。

宮尾 登美子(みやお とみこ)と「天璋院篤姫」



高知県 1926年4月13日生まれ 2014年12月没

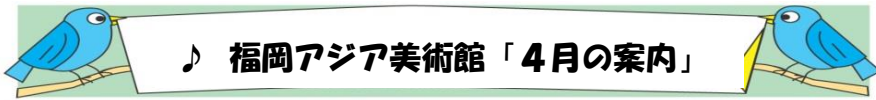
宮尾氏は芸妓紹介業を営む家の子として生まれ、実母は高知の遊郭の女義太夫でした。12歳で父母が離婚し父に引き取られ、義母に育てられました。1943年高坂高等女学校を卒業し、国民学校の代用教員となりました。

1944年結婚後、満蒙開拓団の一員として家族で満洲に渡りましたが、敗戦のため1年間難民収容所で生活しました。1946年夫の実家がある高知へ引き揚げ、農業に従事しました。この満洲体験は「朱夏」に描かれました。

1951年から村立保育所の保育士や高知県社会福祉協議会の保育係として勤務し、神戸で取材して書いたラジオドラマ「真珠の家」が、1962年NHK高知放送局のラジオドラマ脚本募集で佳作一席となり、仕事を辞め文筆生活に入りました。そして、1972年それまで劣等感のあった生家のことを書き自費出版した「櫂」(太宰治賞受賞)は、出世作となりました。

「天璋院篤姫」は、宮尾氏が歴史上の著名人を描いたはじめての作品で、新聞連載後、80枚ほど加筆したそうです。また、この作品は2008年NHK「篤姫」として大河ドラマ化されました。

宮尾氏は、若い頃から心臓神経症や肺結核などの病気と闘ってきましたが、作品のテーマは一貫して女性で、「寒椿」(女流文学賞受賞)、「一絃の琴」(直木賞受賞)、「序の舞」(吉川英治文学賞受賞)などを執筆し、また、紫綬褒章を受章し文化功労者にも選ばれています。



♪ 福岡アジア美術館「4月の案内」

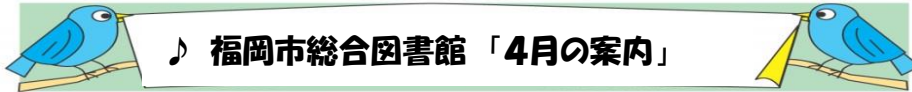


*アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

9日(火), 14日(日), 23日(火), 28日(日)

・時間 11:30 ~ 12:00 , 13:00 ~ 13:30

・場所 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)



♪ 福岡市総合図書館「4月の案内」



*毎月のおはなし会

6日(土), 7日(日), 13日(土), 14日(日)

20日(土), 21日(日), 27日(土), 28日(日)

・時間 土曜日: 6日, 13日, 20日

14:10 ~ 14:25 赤ちゃん向けおはなし会

14:30 ~ 14:50 幼児向けおはなし会

27日

14:30 ~ 15:00 幼児~小学生向けおはなし会

日曜日: 14:30 ~ 15:00 幼児向けおはなし会

15:15 ~ 15:45 小学生向けおはなし会

・場所 「こども図書館 おはなしの家」

☆ あとがき

平尾小学校の図書館は、明るく落ち着いた雰囲気です。また、図書館前の廊下の掲示板や棚には、ポスターやPOPと本と一緒に展示してありましたが、多くの本が借りられていました。ポスターやPOPが、子どもたちの読書意欲を刺激したからだと思います。これからの図書館の活用が楽しみです。

年度末になり、本の返却作業や書架整理など、図書館担当の先生には大変な時期だと思います。次年度に向けて、作業の手順や課題などを記録しておく、次回作業をする時や他の先生方から支援してもらおう時に活用できると思います。

発行: 福岡市教育委員会 生涯学習課

電話: 092-711-4655 FAX: 092-733-5538

図書館員のひみつの本棚 第155回

今月は新年度にぴったりの物語です。

『こんにちはといってごらん』

マージョリー・W・シャーマット／作 リリアン・ホーバン／絵
さかの やよい／訳 童話館出版 2012年 1296円

<お勧め年齢>

乳幼児☆ 低学年☆☆☆ 中学年☆ 高学年-- 中学生--
高校-- 一般--

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

ねずみの女の子バネッサには友達がいません。学校で先生に聞かれた答えがわかっているにもかかわらず、手を挙げる事ができません。本当は友達がほしいし、手を挙げて発表したいと思っているのに。

バネッサから友達がほしいという話を聞いたお母さんは「ひとりぼっちでいる子に“こんにちは”といってみるのよ」と教えてくれます。

次の日、バネッサは勇気を出して、ひとりぼっちでいる子に声をかけてみるのですが…。

<子どもに手渡す時のポイント>

内気な子どもの気持ちに寄り添ってくれる物語です。ユーモアのある展開と心温まる終わり方は、新しい環境に戸惑う子どもたちを勇気づけてくれることでしょう。

バネッサの様な子どもを見かけたら、ぜひ手渡してあげてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

